

中期目標・中期計画

第3期

令和6年度（2024）～令和10年度（2028）

進捗状況報告書（令和6年度）

岐 阜 女 子 大 学

||
||
||

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
①-1 学科等の改組・改編 ・授業科目の精選、若手教員の増員。 ①-2 新たな資格の取得 ・授業内容と関連させた資格取得の徹底。 ①-3 大学の魅力の創出 ・「全国書道展」、「デザイン書道コンクール」の応募数増加。公募展への出品奨励。書道パフォーマンスを通して地域との連携。ホームページの充実。 ②新たな取組により高校との連携強化を目指す。 ・高校生の展覧会、錬成会へ講師としての依頼を受ける。 【文化創造学専攻（観光）】 ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。 ①-1 学科等の改組・改編 ・授業数の軽減、教員の適材適所の配置。 ①-2 新たな資格の取得 ・既存の資格の取得の強化。 ①-3 大学の魅力の創出 ・ホームページの充実・各種のコンテストの実施・出前講義。 ②新たな取組により高校との連携強化を目指す。 ・出前講義の充実。 【デジタルアーカイブ専攻】 ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。 ①-1 学科等の改組・改編 ・学部学科の改組計画に沿った人員・カリキュラムを整備する。 ①-2 新たな資格の取得 ・該当なし ①-3 大学の魅力の創出 ・e-learning 化等、対面以外の学修方法を整備、実施する。 ②新たな取組により高校との連携強化を目指す。 ・高等学校とのデジタルアーカイブの取り組みを継続する。 【初等教育学専攻】 ・人との関わりの力で人を育て上げることの意義が自覚でき、学生の個々が自分のもつ特色を活かし、それを特技にして個性を育てる教育を追求し続けていく。 ・学びの系統、授業に付した（カリキュラムナンバー）に基づく指導と受講意識 のもとに、4年間の自己形成を果たす人材育成を推進する ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。	準備	実施	継続	見直し	実施	II	「日展」には R6 年度に 2 名が入選し、「読売書法展」・「毎日書道展」にも多数の学生が入選している。	学生便覧
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	実施	継続	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	準備	準備	準備	実施	II	①-1 改組計画中のため、人員等は現状では整備しきれていない。	【大学教育推進会議】e-Learning 推進部会_令和 7 年度の e-Learning 構築科目 (15 科目)並びに担当者 (DA 専攻)
	実施	継続	見直し	実施	継続	III		
	継続	継続	継続	見直し	実施	III	②高等学校でのデジタルアーカイブ講座を実施した。	地域連携一覧表

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
①-1 学科等の改組・改編 ・改組の予定はしていない。 ①-2 新たな資格の取得 ・カリキュラムの現状からも、予定はできない。 ①-3 大学の魅力の創出 ・個別最適の学習方法を追究し、いつでも・どこでも学べる（e ラーニング等）その実践化を図っていき、成果・課題を明確にして 教育を推進する。 ②新たな取組により高校との連携強化を目指す。 ・近隣の岐阜城北高校と 連携協定を締結し、教育の交流と人材の育成をより堅固にしていく取り組みを行う ・高校への出前授業を、学びへの期待感・魅力を主眼に行いつつ、広報活動に結びつく内容として見直しをしていく。	実施中	改善	充実を	継続	成果	I	学生の学修環境から、e ラーニングの必要性も薄い状況にあり 敢えて取り組む必要が今年度は生じなかった。沖縄生に対しては充足を図って実施している。 教育内容のガイダンス活動は行っているが、出向いていくゆとりに欠け、実施できなかった。 高校生の学びの喚起に繋ぐ広報活動には時間の許す限界まで関わって高校生の針路に寄与する活動を行った。	広報活動の実績資料
	計画	実施	改善	実施	成果	I		
	実施	交流 実施	実施	実施	成果 実施	IV		
2. 研究ビジョン 研究の充実【教育を充実するための研究の推進】 （１）研究成果の発信 【文化創造学専攻（書道）】 ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・作成した論文を社会人・学生が聴講する「岐阜女子大学書写書道研究会」で発表する。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・科学研究費補助金への応募に挑戦する。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・アナログの「書道」ではあるが、デジタルアーカイブ化する研究を展開する。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・「岐阜女子大学書写書道研究会」を年一回実施し、地域への書道文化の発信に努める。大学院教育の充実のために研究会を立ち上げる。 【文化創造学専攻（観光）】 ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・優秀な論文の表彰を行う。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・教員が応募する際に、学生を協力者にする。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・学部の仕切りを超えた研究を展開する。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・フィールドリサーチを重視した卒業論文、観光関連業界でのインターンシップの充実。	準備	実施	継続	継続	継続	II	「岐阜女子大学書写書道研究会」を発足させることができた。今後は近隣の高校の先生および他大学へ周知させることが課題である。	科研応募者一覧表 紀要などの論文一覧表 論文
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続	II	外部からの資金がないものの、フィールドワークなどのリサーチを例年通り、進めている。	表彰者一覧表 科研応募者一覧表 紀要などの学術雑誌の論文一覧表 卒業論文
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	見直し	実施			

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
【デジタルアーカイブ専攻】 ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・研究所、研究センターと協力し、論文投稿を推進する。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・科学研究費補助金への応募を推進する。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・学部全体でのメタバース、ドローン等の教育活動に取り組む。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・スクーリング科目の内容を見直し、充実させる。 【初等教育学専攻】 ・文化創造学の主宰する研究誌「カリキュラム開発誌」への投稿を積極的に行う教員意識を旺盛にしていく。 ・専攻教員共同による取り組みなどから、共同研究を一層活発化させていく。 ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・専攻会議の議題内容に 研究の議事を置き、研究の交流を図りながら、研究への追究を高めていく。 ・学生の卒業研究に即しながら、教員の専門性から、共に執筆していくことに取り組む。学部の研究誌「カリキュラム研究誌」への投稿を促進していく。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・科研費による研究推進を 実績者の指導を受けて増幅していく。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・デジタルアーカイブ専攻との連携で、教育D Xの先進研究を推進を図っていく。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・早期履修制度を魅力あるものにしていく授業内容の充実を図っていく。 ・「教育実習指定校」との連携を密にし、実習終了後も、教育実践の場として実習校に置いて課題追究を継続する意欲ある人材を育成していく。	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	①文化情報研究センターやデジタルアーカイブ研究所と協力し、研究テキスト発行を行った。 ②科学研究費補助金等への所属教員の応募率が高くなく、さらなる推進が必要である。 ③メタバース、ドローンに関する授業科目が新設された。 ④スクーリング科目の現状把握に留まり、見直しは次年度に実施する。 カリキュラム開発誌への投稿、本学の研究誌への投稿に積極的に向かう意識作りが必要であり、一部教員に限られた取り組みで終始した。 専攻会議議題に教員の研究を誘う事項が設定できなかった。学生育成の内容に追われすぎていた嫌いがあった。 上記と同じ 研究を 共通意識に挙げられなかった状況でおわってしまった。視野に入れていく場を設定していく、今後の課題である。 一部教員の取り組みはできたが、広がりは作れなかった。 早期流制度の説明会を開き、学生は意義は理解して、学問研究への途に着くことはできた。 現場で、教育実践を深める研究的活動を行っていくことを今後も一層意識して取り組んでいく。	デジタルアーカイブ 概 論 (テキスト) カリキュラム一覧 早期履修案内の資料
	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅱ		
	準備	実施	継続	継続	見直し	Ⅲ		
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅱ		
	実施	実施	実施	実施		Ⅱ		
	実施	実施	実施	実施	実施	Ⅰ		
	実施	実施	実施	実施	実施	Ⅰ		
	計画	実施	見直し	実施		Ⅱ		
	計画	実施	見直し	実施	成果	Ⅱ		
	実施	成果と課題	実施	実施	実施	Ⅲ		
	実施	実施	実施	実施	実施	Ⅲ		
3. 貢献ビジョン 社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】 (1) 地域コミュニティづくり 【文化創造学専攻（書道）】 ①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。） ・チラシを作成して「全国書道展」出品団体および東海三県の高校に広	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	毎年高校生が参加する「柳ヶ瀬書道パフォーマンス」に模範揮毫として本学書道部が招待されている。	チラシ・作品応募要項等

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
報を行う。 ②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。） ・「書道」に関する岐阜県、岐阜市等からのニーズに応え、書道パフォーマンスの実施など地域との連携を図る。 【文化創造学専攻（観光）】 ①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。） ・紙媒体及びウェブでの広報を行う。 ②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。） ・地域のリーダー格の人たちとコミュニケーションを図る。 【デジタルアーカイブ専攻】 ①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。） ・チラシ、はがきなどでの継続的な広報活動を行う。 ②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。） ・外部評価等の結果を共有する。 【初等教育学専攻】 ①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。） ・地域内の学校連携として、三輪南の小学校の運営推進に携わって、学生の学校現場活動の場として、小学校の児童指導の要請に応える交流を、計画化して、双方の利益に結びつけていく取り組みを行う。 ②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。） ・本年度 岐阜市警察署との提携による地域貢献活動を、3 学年次の活動に位置づけ、社会貢献意識と実践力の向上を図っていく。 （２）生涯学習の環境づくり 【文化創造学専攻（書道）】 ①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 ・年一回社会人向け「公開講座」を開催する。 【文化創造学専攻（観光）】 ①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 ・社会人向け公開講座を開講する。 【デジタルアーカイブ専攻】 ①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 ・デジタルアーカイブ公開講座を実施する。 【初等教育学専攻】 ①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 ・e ラーニングによる教育職免許状の上進の講座を推進していく。	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	年末に開催される岐阜市の「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」では、二年続けて「のぼり・旗」の揮毫を依頼された。	大学地域連携活動一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続		海外研修などの活動内容を、定期的にインターネットにアップしている。	チラシ等
	実施	継続	継続	継続	継続			大学地域連携活動一覧表
	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	①専攻チラシやはがきを作成し、広報活動を実施した。	専攻チラシ
	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅱ	②外部評価の結果分析が遅れ、マッチングを図るまで至らなかった。	
	計画	実施	見直し	実施	成果	Ⅳ	従来からの出前とりくみ 「税に関する理解」については、4 年生が児童との関わり方Ⅱ重点を置き、効果的な授業を提供してきた。	
	実施	実施	成果	実施	成果	Ⅳ	岐阜北警察署から学生に委嘱されている事項に関わって、職務を果たすことで、効果を上げることができた。	
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅱ	「教育書道講習会」を愛知県内の２ヶ所で毎年一般向けに実施している。岐阜県内でも開催できるようにしたい。	
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	教育リソースを活用している。	公開講座一覧表
	実施	継続	見直し	実施	継続	Ⅲ	①社会人のためのデジタルアーカイブ公開講座を実施した。	資格取得講座・資格認定試験日程表
	計画	実施	実施			Ⅳ	文科学委託事業「現職教員の新たな免許状取得の促進」の３年目に取り組み、現役の教員のキャリア・アップに貢献する取り組みを行った。	公開講座 講演会等の実施要項
4. 組織・運営体制								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】 （１）経営基盤の確保のための措置 【文化創造学専攻（書道）】 ①定員管理を適正に行う。 ・社会ニーズに対応して、各学科・専攻の定員の増減を行う。 ① 収益事業を推進する。 ・「全国書道展」「岐阜女子大学書写書道研究会」などの黒字化を図る。 ③外部資金の確保に努める。 ・科研費に応募する。 【文化創造学専攻（観光）】 ①定員管理を適正に行う。 ・社会ニーズに対応して、各学科・専攻の定員の増減を行う。 ②収益事業を推進する。 ・公開講座などの黒字化を図る。 ③外部資金の確保に努める。 ・科研費に公募した教員に特典を与える。 （２）ステークホルダーとの連携 【文化創造学専攻（書道）】 ①大学情報を効果的に発信する。 ・リーフレット、チラシ、ホームページ等で大学の情報を配信する。 ②学内外からの大学支援を依頼する。 ・本学と関係する組織・企業との緊密化を図る。 【文化創造学専攻（観光）】 ①大学情報を効果的に発信する。 ・紙媒体・ウェブ等で大学の情報を配信する。 ②学内外からの大学支援を依頼する。 ・本学と関係する組織・企業との緊密化を図る。 （３）計画的基盤整備 【文化創造学専攻（書道）】 ①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。 ・年５回実施する「書道コース会」で周知徹底させる。 ②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。 ・学生アンケート調査を基にして、学生のニーズを把握する。 【文化創造学専攻（観光）】 ①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。	準備	実施	継続	見直し	実施	Ⅱ	「全国書道展」の黒字化については、出品料の増額を考えなければならぬ時期に来ているかもしれない。	学科・専攻定員一覧表
	実施	継続	継続	継続	継続			
	準備	準備	実施	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅱ	2024 年は前年度より多く、2025 年度はそれをまた増えた。	学科・専攻定員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	準備	実施	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	特にホームページでの配信内容を充実させる必要がある。	各種リーフレット・チラシ
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	例年通り、発信を続けている。	入学案内 各種リーフレット
	準備	実施	継続	継続	継続			
	準備	実施	継続	継続	継続			
	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	書道関係の備品の充実に努力し実施している。	学生アンケート報告書
	実施	継続	継続	継続	継続			

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
・研修会を定期的に行う。 ②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。 ・学生アンケート調査を基にして、学生のニーズを把握する。 （４）学生の確保のための措置 【文化創造学専攻（書道）】 ①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。 ・オープンキャンパスに来た学生及び資料請求をした学生に対して、本専攻の魅力を手紙によりアピールする。 【文化創造学専攻（観光）】 ①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。 ・オープンキャンパスに来た学生及び資料請求をした学生に対して手紙によるフォロー。 【デジタルアーカイブ専攻】 ①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。 ・オープンキャンパスや資料請求者への広報活動を常に見直し計画的に行う。 【初等教育学専攻】 ①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。 ・定時制高校など入学する生徒の多様化に即して、ハイブリット型の学び方を一層促進していく。 ・オープンキャンパスでの体験授業の内容を、初等教育学のカリキュラムから選択し高校生に分かりやすく、興味の湧く内容。方法を講じ進めていく。 （５）教職員の確保のための措置 【文化創造学専攻（書道）】 ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。 ・有能な若手教員の確保に努める。 ②計画的人事施策により組織の若返りを図る。 ・適正教員人数を目指す。 ③FD・SDを推進する。 ・年一回の研修を行う。 【文化創造学専攻（観光）】 ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。 ・有能な教員の確保に努力する。 ②計画的人事施策により組織の若返りを図る。 ・定年制の運用を図る。	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	学生が揮毫した巻紙の礼状をコピーしてオープンキャンパス参加者に郵送している。	関連研修会報告書
	実施	継続	継続	継続	継続			学生アンケート報告書
	実施	継続	見直し	実施	継続	Ⅲ	オープンキャンパスに参加する学生に、手紙を送る。	オープンキャンパス参加数
	実施	継続	見直し	実施	継続	Ⅱ	①広報活動の見直しは適宜行っているが、入学定員が 15 人から 50 人に増えているため、定員充足率 80%達成に至らなかった。	月別送付数
	見直し実施	見直し実施	見直し実施	見直し実施	見直し実施	Ⅱ	高校訪問への積極取り組みを行ってきた。通信制の高等学校からの入学生も増加の傾向にはある。ハイブリット化 学びは今後の課題。	広報活動の実績表
	計画	実施	見直し	実施	実施	Ⅱ	オープンキャンパスに来た生徒が、本専攻に入学してきている実績は高くなっている。広報活動は効果をあげつつある。	
	実施	実施	実施	実施	実施	Ⅱ	ICT に堪能な若手教員の確保が急がれる。	大学教員一覧表
	準備	準備	準備	実施	実施			大学教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続			FD・SD報告書
	準備	実施	継続	見直し	継続	Ⅱ	経験豊富の教員を雇っているものの、年一回の FD 研修を行っていない。	大学教員一覧表
	準備	準備	実施	実施	実施			大学教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続			大学教員一覧表

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
・教育実践力を自己点検する「評価表」の活用の仕方を改善し、目標値をもたせて有効な使い方を追究する。 ・学生が行う「授業評価」の項目を専攻の教育内容とマッチングさせて結果の活用を図る。 ②教学 I R 体制を充実する。 ・現行の I R 室の活用を、専攻の活動内容の向上のために役立てていく。	実施	実施				Ⅱ	教育実習の事前指導のたびに、評価表に従って自己点検をさせた。自己評価の仕方に甘さのあることが問題であり、この評価観点について検討をして行くことを専攻会議で話し合い、改善して行く方向にある。評価結果を再確認させていく取り組みが不十分であった。 専攻内の活動に関するエビデンスは必要感を持ったが、他の専攻を参考にし、拡大させる運営ができなかった。	自己点検表
	計画	実施	真尾士	実施	実施	Ⅱ		
	計画	実施				I		

||
||
||

||
||
||

||
||
||

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
(該当なし)								
③FD・SDを推進する。								
(該当なし)								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
							③-5 美濃市史執筆委員として協力 ③-6 海津市歴史民俗資料館運営委員として協力 ③-7 恵那市市史編さん委員として協力 ③-8 神戸町文化遺産活用推進事業 神戸山王まつり記録作成委員として協力 ③-9 各務原市『新発見！各務原市の歴史』の監修	③-6 運営委員名簿 ③-8 調査旅費支払明細書 ③-9 監修序文コーナー

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
充実した調査・研究活動を充実させる。 ・幅広くリカレント教育として、学内の専門性を生かした公開講座や講演会を実施する。	整備						業や施設等で活躍する卒業生に講演を依頼し、交流を深めた。次年度以降は、調査・研究活動の充実を図っていきたい。 ・公開講座や講演会の開催はできなかった。	

||
||
||

||
||
||

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
(1) 内部質保証の継続のための措置 ① 教学マネジメントの自己点検評価を推進する。 ・岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、資料を収集し、提供する。 ② 教学 I R 体制を充実する。 ・岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、資料を収集し、提供する。	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	まなびの評価項目による評価を継続し、授業などに反映されている。	自己点検評価報告書 カリキュラム開発研究誌
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、資料を収集し、提供している。	カリキュラム開発研究誌

